

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	文字(ひらがな)と音との照合 : 文学学習の入門期指導
Auther(s)	飯住, 良夫
Citation	児童の言語生態研究 , 9 : 37 - 41
Issue Date	1978-06-08
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045103
Right	
Relation	



五十二年度本会公開授業記録

授業レポート(二年生)

文字(ひらがな)と音との照合

文字学習の入門期指導

飯住良夫

1. 授業案

一、日時 昭和五十二年五月二十五日(水)

午後一時三十分～二時十五分

二、児童 横浜市立汐見台小学校一年三組

男子二十二名、女子二十名

計四十二名

三、学習領域 用具言語

四、授業テーマ

「文字(ひらがな)と音との照合」

ー 文字学習の入門期指導 ー

五、授業テーマ設定の理由とその扱い

(1) 日常の子どもたちの会話は、たいへん活発であるし、会話を中心にして生活していると言っても過言ではない。わずかな時間の内に聞こえてくる会話も、多種多様、多岐にわたる音声を使役して行なわれていることがわかる。

文字については、自分の氏名はもとより、豊富に書けるようになっていく。しかし、文字表記(ひらがなー以下文字はひらがなに限る)については、五十音は、入学前に書けるようになってはいるが、習得の手だて

が、種々雑多である。

(2) 文字表記による言語活動の入門期にあたるこの時期には、文字表記が、それまでの音声言語の体験をふまえた上で、習得されることが望ましい。つまり、文字は、音声言語とは別にあるものではなく、自分の音声を、文字という図形をかりて表現するところに、その意味を持つからである。

(3) 活発な音声言語を使役している子どもたちに、文字表記の習得を期待する場合、何より考慮しておかなければならないことは、文字表記が一字表記をもって一音を表現するという原則を持っていることであろう。

子どもたちは、音声言語の習得にあたって、聴覚からのイメージによったり、音のつながりの誤りを指摘されたりしてきたのであろうが、まとまりとしてつかまえているようすもみられる。つまり、一音一音の音節を意識しているのではなく、たとえば、依頼は、「ください。」というまとまりとして意識しているようである。(聞きなれないことばに対して、音の順が錯綜してしまう。ーとだなーとだな)

このような音声言語の体験に対して、文字表記の習得のためには、連続音を、一音(音節)に区切ること

が要求される。

音声言語を、音節を意識して聴音することと同時に、文字表記が習得されなければならない。さらには、将来、語・文・文章と文字言語の活動領域に発展し、正しく、意味変化に対応できるようにするために、この文字表記の入門期にあたり、ことばは、音節に区切れ、音節の組み合わせによって意味変化を生むことを知らせることが、たいせつである。

(4) 文字表記の学習は、読字と書字があるが、本単元においては、読字を中心とし、書字については、視覚(図形認知)の面と、手工(運筆・筆順)の面とを考え、別単元として指導する。

(5) 文字表記の内、漢字の扱いは、音に意味を持たせようとする日本語の音感の特質から考えて、別の指導とする。

(6) 本学級には、視覚・聴覚障害の子は、いない。

六、指導目標

① 音声言語を、単音に区切って、文字表記できるようにする。

② 単音の組み合わせ・連続として、聴音し、文字表記できるようにする。

③単音の組み合わせ・連続による意味変化に対応できるようにする。

七、指導計画（六時間扱い）―（但、日常化定着化をはかるため、短時間で回数多く扱う。）

- (1) 読字調査をする。（氏名等）
- (2) ことばを音節に区切り、組み合わせる練習をする。（本時）
- (3) 文字表記できた音節を整理する。（特別な表記の約束も含む。）

- (4) 音節の組み合わせによって、単語を構成する練習をする。（体言・用言別）
- (5) ひとりごと作文を書く。
- (6) ことば遊びをする。

八、本時授業形態 担任及び児童の言語生態会員による共同授業

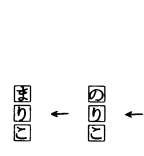
九、本時目標

友だちや自分の名前を材料にして、二／四音の音節の区切りや組み合わせができるようにし、音節の組み合わせによって、ことばができていくことを知る。

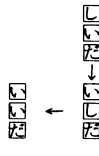
十、本時の展開

学習活動	指導上の留意点
○学習開始のあいさつ ○学習の課題・方法を知る。	○学習課題を、方法を中心に知らせる。
I ㊦ ㊦ ↓ ㊦ ㊦ ↓ ㊦ ㊦	○二音節に区切れるかを調べる。（「もな」は女兒名） ・「モリ」を区切れている子は、「リ」 「ナ」の移行が可能。

II



III



・「モリ（森）」のイメージで音をとらえている子は、「ナ」への移行が困難。

○二音節に区切れたら、三音節に区切れるかを見る。

・どのカードの段階で「の・り・こ」がつくれるか。

○㊦を囲にかえて、「まりこ」ができるか。

・三音節区切りの確認のために行なう。

・音感のイメージが、「のり（食用・糊）」

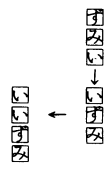
「まり（球）」にならず、音節として、「の・り」「ま・り」と区切れているか。

○清音三音節の区切りができたなら、清音同音の連続が、区切れるかを見る。

・「いいだ」の音が、
アイダ
Bイーダ
Cイイダ

のうちOで区切れているかを「し」を

IV



「い」にかえられるかで見える。

○清音同音二音連続が二音節になっているかの確認（長音との区別で音節が意識できているか。）

・イーズミとイイズミ

○三音節が区切れたら区切った音節が組み合わせ可能な音節として意識できているかを見る。

・「やまだ」↓「やま・だ」「や・まだ」

になっていないか。マとダが音節として意識されていれば、二音の間に、ス・ツが入れられる。

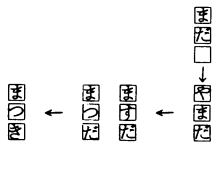
・さらに、三音が独立していれば、ダをキにかえることができる。

○三音節の中の撥音が音としてとれるか。
・ンが、セン（線）としてではなく「セン」と独立していれば、セーゴへの移行が可能。

VI



V



<p>Ⅶ</p> <p>㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ↓ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭</p> <p>○ 今までの三音節区切りが、四音節区切りに移行可能かを見る。</p> <p>○ 四音節区切りが、三音節をふまえてできるか。</p>	<p>Ⅵ</p> <p>㊮ ㊯ → ㊰ かむら</p> <p>○ 四音節区切りが、ウ段長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>Ⅴ</p> <p>㊱ ㊲ ㊳ ↓ ㊴ ㊵ ㊶</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>Ⅳ</p> <p>㊷ ㊸ ㊹ ↓ ㊺ ㊻ ㊼</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>Ⅲ</p> <p>㊽ ㊾ ㊿ ↓ ㋀ ㋁ ㋂</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>Ⅱ</p> <p>㋃ ㋄ ㋅ ↓ ㋆ ㋇ ㋈</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>Ⅰ</p> <p>㋉ ㋊ ㋋ ↓ ㋌ ㋍ ㋎</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>
--	--	--	--	--	--	--

<p>○ フラッシュカードの文字を読み、意味把握して、行動する。</p> <p>○ 学習終了のあいさつ。</p>	<p>○ 今までの三音節区切りが、四音節区切りに移行可能かを見る。</p> <p>○ 四音節区切りが、三音節をふまえてできるか。</p>	<p>○ 四音節区切りが、ウ段長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>	<p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p> <p>○ 四音節区切りが、長音においても可能か。</p>
--	--	--	--	--	--	--

が、この段階では、深追いしない。）

C のを、まにとりかえると、まりこだ。（本人が気づいて、発言。）

T よくできたね。それじゃ、つぎに進むよ。

△Ⅲのカードを提示V

C いしだ。

T どうすると、いしだくんになるのかな。

C いを上に乗ってね。しをまんなかに乗ってね。だを下にもってくる。

T そうだね。他の人に変身させられないかな。

C しを、いにとりかえて。

C うしろに、いを入れて、いしだくん。

C あっ、ぼくのいも入っているよ。

（ぼくのいというところの方は、音が用具として、完全には、意識されていない。）

T じゃ、この人は、立って下さい。

△飯田と石田起立V

T このつぎは、何かな。

△Ⅳのカードを提示V

C いを上に乗って、ずをまんなかにするの。そうすると……

C いずみくんになる。

C いずみ先生。

T だれに、変身するの？

C もうひとつ、いを入れれば、いずみ先生になる。

T いを、どこに入れるのかな。

C いと、ずの間。

C いの上でも、同じだよ。

T それじゃ、もう一度、だれになるか聞かせて下さい。

C （全員） いずみせんせい。

（同音の連続が、二音節になることを、発声で確認）

T いを、ひとつとると……？

C いずみくん。（ほぼ全員）

T それでは、次は、だれになるかな。

△Ⅴのカードを提示V

C やまだくん。

C ぼくは、ますだくんかもん。

T どうすると、やまだくんになるのかな。

C やまだだよ。

C ぜったい、ますだよ。ぜったい。

（ぜったいと言いながら、こたわっているところが、音節と自分とのかかりがうかがえて、おもしろい。）

T みのわ君の声を聞いてみようよ。

C やを入れるの。そうすると、やまだくんになる。

C そう。やを、一番上に入れるの。

T やまだ君。立ってみて。

C あれっ。だが、まんなかにくるの？

T やだま君になっちゃったね。

C ああ。だが、あとにくるんだ。

T この人は、まだ、変身できますか。

C ますだくん。

T ますだくんは、どうしたら、変身できますか。

C やを、まにかえるの。

C ままだって。

C ままだだって。

T これでいいのかな。

C まんなかの、まを、すにかえるの。それで、ますだよ。

T まだ、変身できる人が、いるんだって？ ここから、

変身できる人、立って下さい。

C すを、つにかえるの。

C つを上にして……

C つまだだ。

T ちょっと、まちがっちゃったね。

C つと、まを、反対にするの。

△まつだに、修正V

T まだ、変身させて下さい。

C だを、きにかえるの。

C あっ。まつきさんだ。

T この人は、一番はじめは、誰だったのかな。

C やまだくん。

△以後、変身の跡、音節の移行の跡を確認させる。V

C △ますだくん↓まつだくん↓まつきさんV

T 何人か、変身できたかな。

C 四人も、できた。

△Ⅵのカードを提示。個別にも、手持ちカードを配布V

T このカードで、このクラスのだれかさんを作って下さい。

C せんださん。

C （本人、まだ、気づかず）

C せんだ。おまえだ。

T せんださんが、できたかな。何の字を入れたのかな。

C んだ。

T この人から、だれかに変身できる？

C できるよ。

C こんだだ。

C こんださんだ。

C せを、ごに入れかえるの。

T 次の問題に、いくよ。

△Ⅶのカードを提示V

△すぐさまV

C いがわーっ。(ほとんどの児童)

T だまって、手をあげて：：。

C いがさいしょにきて、がは、つぎにして、わをあとにする。

T この人から、まだ、変身できるかな。

△九名 挙手V

C いながわさんになる。

T どうすれば、いながわさんに変身できるのかな。

C いとがをはなして、なを入れる。

C がをばにかえるの。

C いなばわー？

C わを、とっちゃえばいいんだ。

T がとわをとっちゃって、ばをつけるんだね。三人に変身できたね。

△Ⅷのカード提示V

C あっ。なかむらだ。

C なを入れれば、いいんだ。

C なを入れると、なかむらだ。

T まだ、変身できるんだけどなあ。

C なを、わにかえると、わかむらだ。

T それじゃ。ちょっと、むつかしくするよ。この字をつかってね。このクラスにはいない人の名前がつくれな

いかな。

C かむら。だって、ぼくのともだちにいるもん。

T ほかに：：。

C なかむら。

T もっと他の人になりませんか。

C むからかな。

(このあたりで、音を用具として形式的に組み合わせを意図してみたが、生活体験・実像と離れ切れずに、苦しんだ。)

T 次の問題に、いくよ。

△Ⅸのカードを提示V

C うをまんなかにして、こをあとにする。

T しながゆうこちゃんになったね。これから、また変身

できるかな。

C ゆをこにする。

C こうのにならべるの。

T ぼくの名前、私の名前になるという人はいないかな。

C こをうにするの。

C ゆううだって。

C ゆうしろうだ。


T ゆう□の□にだけ。ひとつだけかえてごらん。

C あっ。ゆうじだ。

T じゃ。これを、とりかえないで、変身できるかな。

C こうじだ。

T 字をとりかえないでだよ。

(ちょっと、苦しがつたので、を提示)

C だって、ゆがちいさくないんだもん。

T さ。今度は、人の名前じゃないよ。

△Ⅹのカードを、個別に配布すると同時に黒板に提示V

T このカードから、ことばをつくって下さい。

C すみれ。

C するめ。

C すずめ。

T すと、れを使ってだよ。

C れたす。


T できたね。ずとれを使って、他にできるかな。

C れーす。

C 下に、ぼう(ー)をひくの。

C いを入れるの。

T ーを引くのと、いを入れるのどちらがいは、あとで勉強しようね。

T それじゃ。次に進むよ。みんなのカードの中に、

があるね。この三つで、ことばを作ってください。

C かたい。

C いかた。

C ゆかたはあるけど、いかたなんかないよ。

C かた。

T いは、どうしたのかな。

C たかい。

C かたい。

C いたか。

T これで、四つもできたね。

T もうちょっとやってほしいけど、この次にしょうか。

C つかれてないよ。やろうよ。

C たかい。

C たいか。

T たいかって、どういうことかな。

C あのね、大昔の鳥なんかがね。とべなくなつて、羽と

かが、だんだん小さくなっちゃうの。

C 大きい火事のことというよ。

T 先生はね。魚屋さんについてね。これはたいかって聞

く時のことも考えたんだよ。

T じゃ。この続きは、この次に勉強しようね。よくがんば

りました。

C これで、勉強を終わります。

(横浜・汐見台小・教諭)